

授 業 概 要

分 野	専門分野 I	科目名	基礎看護学実習 I	担当講師	坂本 真由美 全教員
実施年次	1年次	単位数	2単位	時間数	90時間
科目設定のねらい I-①では、人間関係論、看護の概念、コミュニケーション技術、バウンディング、患者にとっての快適な環境を学んだ。そのことを、実際の病院で見学・体験することで学びを深める。看護の対象と療養環境、看護活動の実際を知ることにより、看護への動機づけとする。 I-②では、さまざまな看護技術を学び、技術演習を積んできたことを生かし、対象者をよく観察し、入院患者に個別的な日常生活援助を実践する。対象者の状態・状況に応じた生活援助技術を提供することにより、看護の対象、看護の目的、看護の役割をよく理解することをねらいとする。					
時間	単元目標	内 容			実習時期
30	1. 看護の対象としての入院患者と療養環境を知ることができる 2. 対象者とのコミュニケーションを通して患者の思いを知ることができる 3. 看護活動の場を知ることができる 4. 対象者の健康上のニーズを明らかにすることができる	(1) 対象者の入院の目的の把握 (2) 対象者の療養環境の実際の観察 (3) 対象者の入院生活状況の把握 (1) 対象者とのコミュニケーション (2) 対象者の思いを知る (3) 患者と看護師の関わりの観察 (1) ベッドサイドの直接的看護活動 (2) ベッドサイド以外での看護活動 (1) 対象者の病理的状态 (2) 対象者の基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 (3) 対象者の生活行動としての基本的欲求の状態 (4) 対象者の入院・病気・治療に対する受けとめ (5) 対象者の思い			1年次7月
60	5. 生活援助技術と観察技術を実際に適応して基本的欲求の充足をはかることができる 6. 対象者との人間関係を形成しそのプロセスから対人関係における自己の傾向を知ることができる 7. 対象者との関わりを通して、看護とは何かを述べるができる	(1) 対象者のバウンディング、症状の観察 (2) 基本的欲求の把握 (3) 基本的欲求の充足のための援助の提供 (4) 自己の援助の評価 (1) 対象者をありのまま理解しようとする態度 (2) 対象者を尊重した態度 (3) 自己の対人関係の傾向に気づく (4) 自己洞察の重要性 (1) 実習を通して学生—患者の関わり (2) 看護の視点 (3) 援助過程を振り返って看護の言語化			1年次1月
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる				